

第6回 基本設計ワークショップシートとりまとめ資料

ワークショップシート⑥で皆さまからいただいたご意見などをとりまとめました。なお、「→ゴシック体太字」は現時点での事務局の考え方となります。

1. ワークショップシート⑥質問2.

| | |
|-------------------------------------|----|
| (1) コミュニケーション日本一の病院..... | 2 |
| ①顧客コミュニケーションについてのご意見・ご提案..... | 2 |
| ②スタッフ間コミュニケーションについてのご意見・ご提案..... | 4 |
| ③地域連携コミュニケーションについてのご意見・ご提案..... | 6 |
| グループワークの反省や今後の改善点..... | 6 |
| ご感想など..... | 6 |
| (2) ボランティアの活躍のためには..... | 7 |
| ご意見・ご提案..... | 7 |
| グループワークの反省や今後の改善点..... | 8 |
| ご感想など..... | 9 |
| (3) 患者・来院者・地域住民等のアメニティの向上のためには..... | 9 |
| ご意見・ご提案..... | 9 |
| グループワークの反省や今後の改善点..... | 11 |
| ご感想など..... | 11 |

2. ワークショップシート⑥質問3.

| | |
|-------------------------|----|
| ご意見・ご提案..... | 12 |
| ワークショップの進め方や今後の改善点..... | 12 |
| ご感想など..... | 13 |

3. ワークショップシート⑥質問4.

| | |
|--------------|----|
| ご意見・ご提案..... | 16 |
| ご感想など..... | 19 |

1. ワークショップシート⑥質問2.

グループワークを終えて、今日のテーマに対するあなたのご意見を書いてください。

(1) コミュニケーション日本一の病院

①顧客コミュニケーションについてのご意見・ご提案

【もしもしナースなどの出張講座】

▼適切な情報提供として今行っている「もしもしナース」はよい例で、アンケートにより市民が知りたい情報を提供している。短い時間だが有効に機能し、コンビニ受診の防止に役立つと思う。病院に来てもらっての講座も良いが、このようにスタッフに出向いてもらう出張講座もぜひ続けてほしい。

▼納税者としての市民（顧客）全体の要望に応えるためには、地域コミュニティとの連携が欠かせない。いろいろな団体の場に出かけよう。対象が絞られるとより具体的な情報を提供できるので、参加者の満足度が高くなる。質疑応答で市民の生の声を聞いてこよう。ついでに病院の説明もすれば、賢い受診の仕方が広まる。まずは、市民病院や保健センターが出前講座をやってくれるということを知らせないといけない。各団体が年間活動計画を立てる時期に、市役所各課は是非アドバイスをしてほしい。

▼「もしもしナース」というのを、具体的に教えてほしいと思います。そこに一般市民が出席や、傍聴はできないのでしょうか？

→ 「もしもしナース」は子育て中のお母さん方を対象に市民病院の看護師が出張して行う小児医療に関するミニ講座で、事前にいただいたアンケートの中から各回テーマを決めて子育てに関する不安や疑問にお答えしています。対面式で行うためお母さん方から看護師に直接質問ができますし、看護師にとっても子育て中のお母さん方の生の声を聞けるとても良い機会でもあります。常滑市子育て総合支援センターで行っており、参加申込は不要ですのでどなたでもご参加いただけます。次回開催は11月29日(木)10時30分からの予定で3月までの開催を予定しております。今後は「もしもしナース」の評判や効果を検証して、小児医療以外の出張講座の企画も考え実施していきたいと考えます。

【調理実習室】

▼保健センターには調理実習室が必要。今までは隣の中央公民館を利用できたので、なくても良かったが、新病院には必要だと思う。6Fの調理実習室はリハビリには十分かもしれないが、離乳食教室や糖尿病教室には、最低3～4台の調理台が欲しい。

▼6Fはデモンストレーション専用にし、保健センターに実習専用の複数の調理台を備えた部屋を作ることはできないものか。保健センターにはスペースがないとのことだが、公民館に出向いて実習を行うことにするのか、釈然としない。

▼リハビリ用の調理実習室となると、普通の家庭用のシンクと車いす対応の可動式調理台が必要になる。計画されていたかどうか確認していない。

▼レストランは、職員用のスペースが広く取られていましたが、もう少し職員用スペースを狭くして、調理実習室を広くすることは出来ないことなのでしょうか？

▼6 階レストラン隣の料理実習室が狭いことについて協議した。保健センターの事業には料理実習もあり、現在は中央公民館の料理室を使用していて、中には30人ほどの参加があるそうだ。なのに、担当者が、料理室を広くしたいという希望を言わないのが不思議だった。私たち市民は、予算もスペースも実感を伴わずに希望だけを述べているのかもしれない。しかし、行政の担当者としての意見が聞きたかった。

→ **調理実習室につきましては、保健センターでの事業（「パパママセミナー」内での離乳食実演、就園前児の保護者を対象とした「すくすく健康生活」、一般向けの「ヘルシークッキング」）や市民病院の健康管理室が行う様々な事業（糖尿病食や嚥下対応食の教室）での使用を考えていますので、設えや運営のあり方も含めて、保健センターと協議して検討していきたいと思えます。**

なお、中央公民館で文化教室やシルバースクール、市民講座として行われている料理教室につきましては生涯学習課の催しとなります。

【医師の診察について】

▼コミュニケーションとしては、患者と医師の間が最も重要と考えるが、患者が「自分の体は自分で守る」という意識を自覚することが大事であり、患者の意識の成長を促す医師が大切と思っている。

→ **ご指摘のとおりだと考えます。コミュニケーション日本一の病院を目指す中での課題の一つとしてご意見を参考にいたします。**

【患者への対応について】

▼医師もナースも他のスタッフも患者やその家族から信頼され、よきコミュニケーションが取れるようにすべき。以前はその土地の言葉で話すことがよいとされたが、今はほとんどが標準語を理解できるようになった。地元の言葉はきつい印象がある。なるべく丁寧な言葉遣いに心がけてもらいたい。

→ **言葉遣いにつきましては相手の方により受け止め方が異なるためデリケートな問題であると感じていますが、常に相手の立場に立った言葉遣いをするようスタッフに徹底していきます。**

▼やさしい人、柔和な人、暖かい人が望まれる。ただでさえ患者は弱っている。患者の権利を尊重し、患者の視線でよい病院を目指してほしい。働きやすい病院ももちろん目指すべきだが、自分もかかりたい、入院したい病院にしてほしい。

→ **ご指摘のような病院を目指し努力します。**

【情報発信】

▼コミュニケーションの向上は新しい空間や建物や機会が提供されたからといって即座に図られるものではない。設計段階からコミュニケーションの向上を目指すなら新病院の屋上庭園・食堂・エントランススペース・デイコーナー・会議室等が、役割肩書きを超え、時を選ばず、多様な利用ができる空間であることをアピールする。利用者市民各人が新病院環境の維持向上の担い手であることを告知していくことなどの情報発信と、現在の通院入院患者や他の多くの市民からの要望の取り込み方の効率化など相互情報伝達

を深めることを今から推進するべきであると考える。

- ご指摘のように、コミュニケーションはハード面の整備だけではなく、情報発信を含めたソフト面が相まってはじめて機能するものだと考えます。新病院にどのような施設を作って、どのような運営をしていくのかを今の段階から情報発信していきたいと思います。

【危険予知訓練（KYT）】

- ▼「人間はミスをする動物」です。リーダーが、この認識を腹の中に抱えているか否かで、その集団の出力が異なると思っています。特に、「思い込み」をどう排除するか、これは、訓練しかない。「KYT」を取り入れてください。
- 現在の市民病院には「危機予知訓練」についてのノウハウがありませんので、ご教授いただければと思います。

②スタッフ間コミュニケーションについてのご意見・ご提案

【日常的なコミュニケーション】

- ▼コミュニケーションを顧客、スタッフ、地域連携の3つに分類し、課題の洗い出しと、目標設定を行なったが、先ずは病院スタッフ間の意識向上をもったコミュニケーションが重要で、それが出来てこそ、患者さんや市民の皆さんとのコミュニケーション、ひいては市内医療機関、福祉施設等のコミュニケーションに繋がると思いました。
- ▼職員同士で意見を言い合えるためには、日頃から会話の数が多くなければいけない。たとえ雑談でも人間関係構築のためには必要な会話といえる。でも部外者から見たとき「仕事をさぼっている。」と映ることも。時と場所をわきまえた行動も教育の一部。
- ▼職員食堂の充実を！人間はおいしいものを食べるとき警戒心がゆるむ。『梅ちゃん先生』でも相談事は職員食堂でしていた。グループワークでは職員食堂のスペースが浸食されそうな雰囲気だった。食堂は職員間コミュニケーションの大切な場所です。
- ご指摘のように職員食堂は職員同士のコミュニケーションの場として重要であると考えていますので、その点に配慮した職員食堂まわりの配置計画を行っていきます。

【スタッフ間の情報の伝達・共有】

- ▼目的意識の共有をしっかりと。某病院で診察開始時間直前のこと、市のあいさつ週間にあわせて玄関前に白衣の病院職員（たぶん役付）がずらっと並んで「おはようございます。」を連呼していた。小学生が校門前で声を張り上げれば「元気があってよろしい。」と思うけれど、早朝から必死で順番取りをしている患者にとっては「さっさと診察の準備をしろよ！」と怒りを覚えた。むしろ、診察室に入る時『おはようございます、〇〇さん、と大きな声で呼びかけることを義務化する』とでもした方がよほど患者の心がほぐれる。何のために何をするのか、職員全員に周知するシステムがあるのだろうか。
- ▼100人会議やワークショップに病院職員の役付の方々に何度も参加していただき、市民の声を聞いていただいた。そのことが平職員の皆さんにどの程度伝わっているのか。患者の声を集めるために意見箱が設置されているが、良いことも悪いことも、職員全員で情報を共有できる体制があるのだろうか。
- ご指摘のように病院の幹部の経営方針や取組の目的を職員全員に周知したり、職員

全員で共有したりすることは組織としてとても重要な事であると考えます。現病院でも全部門の職員を対象とした朝礼や、看護部の師長会・主任会、医局会議や病院幹部による管理会議などを行ってはいますが、現段階ではそれらで十分行えていると自信をもって言える状態にはありませんので、今後は現在の取組みを改善したり、その他の体制を考えていくなどスタッフ間の目的意識や情報の伝達、共有に努めていきたいと思えます。

【カウンセラーの拡充】

▼精神科や心療内科が新設されれば心理カウンセラーも数名補充されるであろうが、見込まれない場合スタッフ間や患者とスタッフの橋渡しを補完できるカウンセラーやケースワーカー等の充実が必要であろう。常勤非常勤は別にして病院や学校には今後ますますの需要が考えられるので市政県政で拡充を計画されることを望む。

→ ご指摘いただいたようなカウンセラーやケースワーカー等の充実につきましては今後検討していきます。

【電子カルテの導入について】

▼電子カルテになると医師がパソコン入力に目が向き、患者との会話が乏しくなることを懸念する。医療秘書を活用できれば解消するが、人件費との絡みで難しいかもしれない。

▼新病院では電子カルテが導入され、医師がPCの画面ばかり見ていることが心配だから、医療秘書をつけて負担を軽減し患者と話す時間を多くする、という意見があった。すでに電子化が進んでいる某病院では、最初のうちこそ画面とにらめっこだったが、若手から順に慣れて、今ではけっこう会話もできるようになった。むしろデータの整理や予約などがスピーディーで待ち時間の短縮になっている。医師の事務仕事軽減には賛成なので、予算の許す限り、医療秘書の導入を進めてもらいたい。

→ 新病院においても電子カルテの導入は検討していますが、ご指摘のような弊害がないよう、運用でカバーします。医療秘書については予算との兼ね合いはありますが前向きに検討したいと思えます。

【チームを組んでの新人教育】

▼新人看護師の教育で、常にベテランとペアで行動させることによって細かい技術までを教えるとともに、2組の目で動作を確認することによってヒヤリハットの件数を半減させた、という報道があった。常滑市民病院でも看護師はチームを組んで新人教育をしているが、不規則勤務なので特定のペアは組めないという。でも、新人にとって何でも相談できる先輩の存在は大切だと思うので、常時行動を共にできなくても特定の教育責任者をつけたらいいと思う。

→ 「パートナーシップ・ナーシングシステム」という先進的な新人研修の報道ではないでしょうか。報道後採用する病院も増えてきてはいますが、現病院のスタッフ数では難しいという事情もあります。当院ではオリエンテーション研修からはじまり、職場内のローテーション研修などきちんとした目標を立て、また部署ごとに教育担当者をあてて新人教育を行っています。新人教育以外にも、看護師を対象とした多くの研修を行っております（詳細につきましては市民病院の看護部のページにも掲載しております。）。

③地域連携コミュニケーションについてのご意見・ご提案

【地元企業との連携】

- ▼トイレ・調理実習の調理台は最新のものを市内の企業に提供してもらえたら嬉しい。
- ▼新病院の設備納入業者選定では地元企業にがんばってほしい。常滑には陶器の専門企業があるし、メンテナンスも近いと便利だ。
 - **ご提案のような設備を扱う地元企業への投げかけを行っていきたいと思います。新病院建設にあたっては、地元企業と良い協力関係ができればと考えます。**

【セントレアに学ぶボランティアのマナー】

- ▼セントレアは中小規模空港の利用者満足度世界一だ。病院の職員やボランティアにマナー講習の講師派遣を頼めないだろうか（もちろんボランティアで）。ついでに感染症病室や救急医療の現場を見てもらって、病院の宣伝とともに人脈も作ろう。
- ▼空港との連携として、マナー講座を出前してもらおうとよい。市民病院は公務員色が強い。企業の良さを学んでほしい。また、ボランティアには接客の基礎を学ぶ必要がある。
 - **セントレアは顧客サービス部門で世界一となっており、マナーをはじめ病院として学ぶところが多々あります。ご提案の講習・講座につきましては一度セントレアと相談してみたいと思います。**

グループワークの反省や今後の改善点

- ▼日本一をめざすための具体的手立てや指標、期限をさだめ定期的に評価することは大事なことだと感じた。そのためのアイデアはまだ無限に出てくるのではないかと思う。
 - **グループワークの中でもご指摘のように「見える化」をして評価することが重要であるとの意見がありました。「コミュニケーション日本一」の指標を定めることは大変難しい課題ですので、今後お力を貸していただければと思います。**

ご感想など

- ▼「コミュニケーション日本一の病院」づくりは、とてもむずかしいと思うが、しかしやりがいがあり又魅力ある活動でぜひチャレンジすべきと思う。そしてその活動の結果、ミスコミュニケーション、コミュニケーションエラーが原因で起こる医療過誤やインシデントは無くなり、病院収支は大幅に改善されると確信する。
- ▼コミュニケーションに関しては、ソフト部分に関わるが多かったように思うが、時間が足りなくなるくらいさまざまな意見が出た。
- ▼子育て協議会での「もしもしナース」のとりくみに注目していただけてうれしかった。
- ▼スタッフ・コミュニケーション改善、考えられることを今日から始めよう。失敗したっていいじゃない。新病院ができるまでに試行錯誤を重ねよう！
- ▼都合により当日参加できませんでしたが、思いはひとつ新病院になっても現在のとおりに、小さいからこそできる病院全体が温かみのある誰とでも挨拶・声掛け・相談・受診・入院・治療のできる信頼・安心を持てる雰囲気継続して下さい。お金もかけずに今の陣容・体制で十分可能です。スタッフ間の件も信頼しています。対地域についても現状をさらに発展させましょう。

- ▼はじめに進行役の犬飼さんより討議の視点が示されたことでスムーズに意見交流できた。
- ▼予防の推進として、医療講座・検診・調理実習をすすめるに当たり、コーディネートするスタッフと市民の要望をどう集めるのかが課題となる。今後も100人会議の様に、市民がわが病院を応援するんだという気持ちを持ち続ける必要がある。

(2) ボランティアの活躍のためには

ご意見・ご提案

【今後の進め方について】

- ▼病院ボランティアの活動内容については、病院サイド、来院者サイドのニーズを受け取りその都度、選択しながら臨機応変に進めるのも一考では？
 - **ご指摘のとおりニーズに応じた活動内容を考える必要があると考えます。**
- ▼発展、安定させて行くためには、行政、病院などにおける所属、位置づけの明確化、組み入れられた中での意見交換、連絡調整、それぞれコミュニケーションを密にした一体推進が望まれる。
- ▼病院が本来の医療活動の他に地域活動に活発に参加するためには、外部からの要望を集約したり病院の人員を割り振ったりする専門のコーディネーターが必要なのでは。
 - **専門のコーディネーターの導入については予算の都合もありますが、ご指摘のとおり病院の職員の中にボランティアリーダーの方と連携していくことのできる人員が必要だと考えます。現在の病院職員はボランティアに関するノウハウが乏しいので今後ボランティアに関する検討の中でボランティアを基礎から学ぶ機会が必要だと考えます。**
- ▼組織、処遇、企画運営などは市長のご挨拶のあったセントレア・スタイルをモデルに検討して見てはどうでしょうか。
 - **セントレアでは「顧客満足度世界 No.1」の取組みの一つとして、地域の皆さまとセントレアが協力してお客さまにおもてなしの心を発信する案内ボランティアを初めたということです。空港内の案内ボランティアは全国の空港で初の試みでしたが、それでも開港前1ヶ月間だけのボランティアの募集期間には多数の応募があり、面接や研修を経て開港時には139名、現在は300人以上の規模となり、募集の再開を待つ方もみえるそうです。ボランティアの多くは知多半島の都市や名古屋に暮らすシニア世代の人たちや主婦の方で、ボランティアの活躍の場もアクセスプラザでの案内からはじまり、空港内の見学ツアーやスカイデッキガイドまで広がり、お客さまにもボランティアスタッフ自身にとっても大好評で、見事、顧客満足度世界 No.1 を実現しています。またメンバーの方のご意見にもあったように、ボランティアと会社の橋渡し役となる専門の部署が社内にあるなど、新病院のボランティアのあり方を考えていくにあたって大変参考になるモデルだと考えます。**

▼ボランティアの役割やボランティアステーションの機能をどう規定（評価）するかで設計内容・規模も変わってくるので、今日の我々委員の意見を極力尊重して欲しいと思う。

→ 病院自体の建築面積には限りがあり、その中で病院機能として必要な面積を確保していく必要があります。ボランティアも病院にとって重要な機能の一つですので、グループワークでいただいたご意見等を出来る限り反映したボランティアステーションとなるよう努めます。

▼ボランティアに積極的な立場で意見を出したが、ボランティアが集まるかどうか、開院までに意識的・体制的にどう準備するか、早々の課題になると思う。

→ ご指摘のとおりだと考えます。新病院ではボランティアの方の活躍が不可欠ですので、今後ともご協力をお願いいたします。

【設計や設備に関すること】

▼私たちのグループの意見として、「ボランティアステーション（ルーム）の他に、エントランスホールの情報ライブラリーの管理と併せて、コーナーを設置して欲しい。」との案は、大変良いと思われるので、是非実現していただきたいと考えます。

→ 今後の実施設計の中でご意見を参考にさせていただきます。

▼常滑ホールの舞台（演台）を可動式で数パーツに分割できるものにすれば、エントランスホールでの演奏会の催し物でも活用でき、良い提案と思っています。

→ ご提案の可動式で分割できる舞台につきましては製品を調査し、備品整備の中で検討いたします。

グループワークの反省や今後の改善点

▼今日のグループワークの目的は基本設計に我々委員の意見・考えを少しでも反映させることである。しかし、そこに至るまでの過程で、病院におけるボランティアの役割やボランティアステーションの機能等について十分討議する必要があると思うが、相変わらぬ時間不足でそれが十分出来なかったことは、少し心残りであった。

▼（細かいことではあるが今後のために・・・）10/3付けでワークショップの開催についての提案をした際にも下記のような要望を出しておいたが、今回の3つのグループの配席状況はあまりにも接近し過ぎであった。移動に要する時間的ロスも考慮してのことと思うが、せめて1室内であっても、出来るだけグループ間の席を遠くに離して配置することは可能な筈である。「グループごとの会場は、各委員がディスカッションに集中出来るように、極力独立した場所が好ましい。」我々のグループは少しでも討議に集中したいので自主的に席を移動させたが、本気でワークショップ、討議の成果を求めるなら、その辺の配慮まで考慮すべきである。

→ 今回のグループワークでは配慮が足りずにご迷惑をおかけしました。ご指摘の点につきましては、今後の企画運営をしていく上で気を付けます。

ご感想など

- ▼メンバーの方々が事前に討議資料を準備してくださり大変役立ち、感謝しています。
- ▼グループ内で色々な意見を聞いて大変良かった。特に、櫻尾さんより「ワークショップ討議資料」としてプリントを配布していただき、今後の方向付けの話し合いの資料として活用でき、大変助かりました。
- ▼進行役のリードが良かったおかげか、大変有意義な話し合いとなりました。
- ▼開院してからではなく、基本設計の段階からボランティアの位置づけがされていることを頼もしく思った。病院・行政・住民のコミュニケーション日本一の病院を目指して今後さらに具体的なボランティア活動の準備をしていかなければならない。道のりは大変そうであるが、市民の一人として出来る限り協力していきたい。
- ▼参加者も真剣に意見を述べ、受ける側も真摯に、また、迅速に対応されていて、まさに「協働」だと思った。

(3) 患者・来院者・地域住民等のアメニティの向上のためには

ご意見・ご提案

【エントランス、中央待合、情報ライブラリー】

- ▼1階の階段位置が前回と変わったため、情報ライブラリーの前に椅子がおけるのか確認できなかった。飲食をしない人の休憩、待ち合わせにやはり必要だと思う。でないと喫茶の部分へ座る人が増え、飲食したい人が困ると思う。
 - **ご指摘のとおり現在の事務局の基本設計(案)では休憩や待ち合わせのスペースが少ないと考えますので、休憩や待ち合わせのスペースが確保できるよう考えていきます。**

【売店(コンビニ)、喫茶】

- ▼前回までは南生協病院のような手作りパン屋さん魅力的でしたが、資料のアンケート結果を見て衛生面とか不安を訴える意見もあり、社内にホスピタルローソン推進部があるローソンならとコンビニ単独の意見に納得できました。ただし、買ったものを食べることのできるスペースはなるべく広くお願いします。窓際は外を向いて一人でも気軽に飲食できるように椅子を並べて欲しいと思います。
- ▼売店は職員の希望が多かったコンビニのほうが機能的にはよいかと思います。喫茶の機能が1階にあると、なかなか6階外来レストランには行ってもらえなくなるのではないかと思うので、コンビニと休憩スペースだけにしたほうがよいのではと考えました。
 - **今後の実施設計や業者選定の中でご意見を参考にさせていただきます。**

【診察室・待合】

- ▼診察室の待合の椅子は、できたら背もたれに手すり付きのもので。さらに医事受付前の椅子は移動を想定してキャスター付きが良い。
 - **いただいたご意見を参考に備品整備の中で検討します。**

【職員レストラン、外来レストラン】

- ▼レストランは、タニタ食堂のようなカロリーや脂質や塩分に配慮した献立を提供できるような業者さんに入っただけののが一番うれしいのですが、他の人の意見であったワタミのお弁当を・・・という意見もありだと思います。入院患者さんの付き添いの方や外来の患者さんも予約日時に来ている方が多いので事前の予約も可能だと思います。もちろん病院で働いている方も事前の予約は可能だと思います。事前予約無しでも食べることができればなお良いのですが・・・。病院食よりは良いのかなと思います。
- ▼レストランや売店について、たくさんの意見が出され、まとめるのも大変なくらいでした。その中でファミリーレストランや弁当店など大手チェーンの名前が挙がっていました。病院の最上階6階にあるレストランであり集客にはかなり苦労するだろうという意見もあり不安も大きくなります。病院の外からレストランへ直接行けるルートがなく、わざわざ院内のエレベーターで行く経路になり、だからこそ特色を出していく必要があると思います。
- ▼思いつきですが、先日げんきの郷（大府）に行った時、知多半島産の野菜を中心としたお惣菜店が大変盛況でおいしかったので、地元農協に協力していただき出店していただけたら嬉しいと思いました。提供するメニューも、内分泌医師監修のメニューを作るなど、週替わり（たとえば整形外科医師監修の骨太食、腎センター監修の健腎食！？・・・等々）の健康メニューを限定食で安く提供するなど魅力ある工夫ができるとよいかと・・・。できれば常滑産の食材を多く（生産者の名前も出すとか）使用してもらいたいです。
 - **給食業者の聞き取りでは、常滑市民病院の規模ではなかなか厳しい経営となると聞いております。とはいえ外来患者さんや病院で働く職員にとってレストランは必要ですので今後の業者選定の中で、業者の提案を受けながら検討します。**

【病棟、病室】

- ▼病室ですが、4床室は前回よりも改善されていて概ね良いのではないかと思います。ただ、どんなベッドや家具になるのか実際のモデルルームを見てみたかったです。
 - **予算との兼ね合いもありますが、今までにない形の4床室となりますので、モデルルームで実際の使い勝手などを検討したいと考えています。その際はメンバーの方にも見ていただける機会が企画できればと思います。**
- ▼私自身は入院生活で私物を置く場所に困っていましたが、収納が充分かとか壁等に下げることのできるフックのようなものが付くのか等、気になります。
 - **備品整備の中で参考にさせていただきます。**
- ▼個室はグレードを何段階か設けていただけるとは思いますが、詳しいことを聞きそびれてしまったので心配です。あまり高価にならない程度でシャワー付きの個室をお願いします。
 - **個室料の設定は今後の検討課題ですが、ワークショップの中でもメンバーの方々からもご提案いただいた「シャワー付き個室」については整備いたします。**

【ファミサポによる院内託児】

▼アメニティのグループでは話し合われていませんでしたが、院内の託児について、ボランティアのグループではどういう意見が出されたのか気になりました。既にファミリーサポートという既存システムがあり、ファミサポの会員が病院での託児を担当することになれば、会員登録者も増えるし、よいと思いましたが、どこで託児をするのか？スペースがあるか？わかりません。職員向けの院内託児の場のスペースが一部託児として使えると思うのですが、当日の話し合いではどんな意見がありましたか？

→ 当日メンバーの方からご提案はありませんでしたが、ファミサポの利用はとても良いとご意見だと考えますので、今後話し合っていきたいと思います。

【内装や設備に関すること】

▼床の色は弱視の人でも困らない色を考えて欲しい。

→ 弱視者は、動線と直交するような縞状の模様や床色の塗り分けがあると段差と誤認することがあるとのことですので、今後の実施設計で考慮いたします。

グループワークの反省や今後の改善点

▼最初にコンビニの討議をして時間が掛ってしまい、他の項目を満足に討議できなくなってしまいました。時間をくぎって進行するつもりでしたが、途中で打ち切る事ができませんでした。地域住民等の協議ができなくて残念でした。

▼時間がなくて全部が話し合えなかった気がする。残った部分としてはダイルールのレイアウト及び設置物、例えば図書棚を置くべきか、またパソコンは必要か・給湯機能の必要性など。

▼1階部分のコンビニ、喫茶の問題に時間がかかったので病室やトイレ等他の施設の意見交換があまりできなかったのが残念でした。

▼コンビニや喫茶等は入ってくれる業者さんの問題もあり、私たち一般の意見だけでは難しいので、堂々巡りの意見ばかりだった気がします。

▼カフェやレストランについて、くわしくお話が聞けましたが、それ以外の場所にまでなかなか行きつけなくて、残念でした。

→ 熱心にご討議いただきありがとうございました。時間が足らずに話し合えなかった点につきましても、ワークシートをはじめ様々な形で皆さまからさまざまなご意見をいただいておりますので、出来る限り実現していきたいと思います。

ご感想など

▼アメニティは希望すれば限りがありませんが、患者さんはじめ利用する人の目線で常に考えて、より良い方法を取り入れていくところが大事だとおもいました。

▼皆さんのお話を聞いていて、病院というのは、事細かくいろんな箇所に利便性が考えられているのだと、改めて思いました。

2. ワークショップシート⑥質問3.

「新病院設計ワークショップ」を終えて、感じたことやご意見を書いてください。

ご意見・ご提案

- ▼設計がどんどん変化するのが素晴らしかった。しかし、まだ足りない気がする。期限があろうが、ソフトでカバーできないところは、最初から設計に盛り込まねばならない。また、余裕を残さないと八千代病院のようになる。
 - **建設事業費の問題もあり、限られた予算とスペースの中で、将来を見込んで空きスペースを作っておくことは難しいため、将来の増築場所を考えての配置計画を進めています。またメンバーの方からご質問の多かった産科のように新たな診療科を始める場合は施設を改修することでの対応を考えています。**

- ▼開院（それ以前の説明会）ではぜひボランティアによる病院説明ができるようがんばっていきたいという意見も出た。
 - **ボランティアの方による病院説明につきましてはぜひお願いしたいと思います。**

- ▼皆さんの意見を読ませていただき、今の段階から病院と保健センターの連携をしっかりと具体化していく必要を強く感じました。病院の糖尿病教室には既に参加させていただきましたが、保健センターで実施してきた教室とは対象者がかなり違い戸惑いました。ですがその違いこそ大切で、そこをよく理解し合った上で連携することができれば、よりよい事業が地域で展開していけるのではないかと思います。病院の職員の方々のご意見も聞きたいです。
 - **保健師の方には、病院と保健センターの連携の一環として、糖尿病教室での講義をいただきありがとうございます。病院側も開院までの間に保健センターとより緊密な連携を進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。**

ワークショップの進め方や今後の改善点

- ▼事務局のまとめ方もとても上手で、次回に活かせるような会の進め方ができていた。今後も続けて欲しい。
- ▼できることならアメニティだけでもう一回細部にわたり行いたいと思いました。
- ▼テーマ別のワークショップがもう1回あるとよいと思った。
- ▼新病院のハード面はよく検討されて良い病院ができあがると思う。しかし、それに負けない中味（ソフト面）が課題となる。全組織をあげて「コミュニケーション日本一の病院」づくりに平成27年度を当面の目標としてこれから活動を始める必要性を痛切に感じる。
 - **今後も何らかの形でこのような議論の場を企画したいと考えております。メンバーの皆さまにもお声をおかけいたしますのでよろしくお願いいたします。**

ご感想など

【ワークショップに参加して感じたこと】

- ▼前回の100人会議とは違って、少人数での話し合いに重点を置いたこのワークショップの企画は、参加者の一人として大変良かったと感じています。
- ▼今回、100人会議のメンバーは19名の参加でしたが、貴重な時間をさいて自分の家を設計しているかの様に真剣に取り組んでいる姿にいつも感心していました。私もその一人だと思えると誇らしいです。
- ▼事務局、病院・行政メンバーの方々並びに市民メンバー全員がそれぞれの立場でその日のテーマに真剣に向き合い取組まれ積み重ねられた日々でありそのなかの一員として貴重な時間を過ごせたものと感謝申し上げます。
- ▼立場はいろいろであったが、ひとりひとりが前向きに話し合いに参加できて有意義な会であったと思う。
- ▼去年の100人会議で終わりではなく、このような場を設けていただきましてありがとうございました。参加メンバーの方々はしっかりとした意見をお持ちの方ばかりで、私は少し場違いな気がしていました。私のような素人の意見にも耳を傾けていただきありがたかったです。
- ▼このような機会を作っただけで、病院づくりそのものへの期待が高まったことはもちろんですが、回を重ねる毎にメンバーのみなさんとの親交が深められ会えることが楽しみにになりました。
- ▼市民メンバーさんの新市民病院に対する思い、特に市民病院と患者さんや市民の皆さんの橋渡しをするボランティアとしての意識や病室、トイレ、レストラン、コンビニ等、患者さんや市民の皆さんの目線によるアメニティへのこだわりのレベルの高さに驚きました。
- ▼いち早く図面をみせて頂き、新病院が確実に建設に向けて動いている事を実感しました。
- ▼去年の100人会議の後、日建設計に決まったことを広報で知りました。私にとっては全然知らない会社だったので、「何これ。大丈夫なの？」と失礼なことを思っていました。でもワークショップで何度も顔を合わせ、たくさん話し、病院の機能についてとてもよく理解していることがわかりました。また、市民の意見を取り入れて素早く設計変更をするなど、すばらしい市民病院を作りたいという熱意が伝わってきました。今、私は日建設計を信頼しています。「いい病院ができるよ。」と自信を持ってみんなに言うことができます。これもコミュニケーションの成果？
- ▼市民と一緒に病院づくりに参加出来たということは、とても素晴らしい取り組みだったと思います。
- ▼市民・病院・行政の各メンバーそして事務局員のみなさまの本当に熱心な論議に胸を打たれました。色んな立場の方々からのご意見を伺い、得した気分です。
- ▼ワークショップの市民参加者全員がPCメールができたので、事務局との情報のやりとりが素早くできました。毎回、参加者の意見をまとめて、回答までつけて返信くださった事務局の丁寧な仕事に感謝します。このまとめを元に次回のワークショップに参加したので、とても有意義な議論ができたと思います。メールや投書などは多数の意見を集約するには便利かもしれませんが、直接顔を合わせて議論することが本音を引き出す上で不可欠だと感じました。面倒くさいことかもしれませんが、こういったコミュニケーションスタイルをこれからも大事にしてほしいと思います。

【メンバーの意見の基本設計への反映について】

- ▼設計への意見の反映がワークショップのステップごとに確認できたのはよかった。その反映の結果をうまく情報伝達して今後の市民参加の意欲を形成して行って頂きたい。
- ▼常滑市は財政的には大変苦労しているそうですが、こんなにも優れた頭脳集団がいらっしやることに頼もしく思いました。世間に多くありがちな「単に意見を聞き置く」といった立場でなかった事がうれしかったです。
- ▼素人の私たちが、様々な意見・要望を述べても、嫌な顔をしないで聞いてくださり、次に参加すると改善されている事もあり、うれしくなりました。
- ▼ワークショップでの各種意見に対しても洩れなく汲み上げ、文字どおりの『みんなで創ろう』を实践されたと実感しました。
- ▼いつも皆さんの視点や意見には感心させられる。多くの意見要望が設計に反映され市民に愛される新病院が誕生することを願っています。
- ▼去年と今年、三回手術し入院を4回もした私は休日の退屈さや細々と気づきがあり、その体験から意見を出せて建築などに役立たせてもらえそうな手応えをもてたので新・常滑市民病院に期待します。
- ▼熱心に参加されていたみなさんが、本当に詳しく、いろんな提案をされていて、お話を聞くだけでも勉強になりました。また、そういった市民の意見が計画に盛り込まれていくのを目の当たりにできる、大変有意義な取り組みでした。

【ワークショップの内容に関して】

- ▼石巻日赤病院のビデオは、非常に参考になりました。
- ▼毎回いろいろなアイデアと工夫がされており楽しく、有意義なワークショップでした。
- ▼「具体的な設計内容の説明」「昨年の3.11における石巻日赤のビデオ上映」6回目の最初に上映した「ドクターヘリの搬送ビデオ」など、視覚に訴えた良い方法など、色々な方策で我々に情報提供していただきました。皆様方のご努力に感謝します。
- ▼2回の病院視察も参考になり、また楽しかったです。

【今後に期待】

- ▼H27年5月が益々楽しみになりました、ありがとうございました。
- ▼市民病院に関心のある人が、新病院を積極的に応援する立場から意見を出し協力してくれていることは、たいへん有難いことであり感謝したい。こうした応援団を、大切に、そして継続していくことが、新市民病院の成功に繋がると思う
- ▼最終的にどのような設計になるのか楽しみです。
- ▼ずいぶん南生協病院で長年お世話になってますが市内に総合病院があれば代わりたい気持ちなので今後も新・常滑市民病院がオープンになるまで何かと関わりたいと思います。
- ▼議論するには、時間が足りません。我々の方は、時間を取れるとしても、医師・看護師さんは、これ以上、無理ですから、今までに出た議論の中から答えを見つけてください。
- ▼100人会議及び今回のワークショップへの参加を通して、市長が本気で新市民病院を建設しようとしていること及びその過程で市民の意見を真剣に汲み取ろうとしていることを実感し、その姿勢を大いに評価すると共に、今後の準備段階はもちろんのこと、開設後の管理・運営面においてもその姿勢を貫き通して欲しいと思う。

【事務局へのご意見等】

- ▼とりわけ事務局トップの市長、副市長自らが先頭に立ってリーダーシップをとられたことに敬意を表します。
- ▼山田副市長さんはじめ事務局のご努力に敬意を表します。
- ▼最後に、院長先生初めスタッフの方々、市長、山田副市長はじめ行政の方々、日建設計さん、皆さんのご努力に感謝いたします。今後私がお手伝いできること見つけていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ▼院長、副院長はじめ関わったスタッフの熱心さに敬服。今までの良くないイメージが払拭された。
- ▼毎回、みんなの意見をよくまとめていただいて、ありがとうございます。
- ▼どんな小さな質問にも、きちんと答えがかえってきたのは嬉しかったです
- ▼事務局の方たちは準備から意見のまとめ、基本設計への反映・・・とお忙しかったことと思います。ありがとうございました。

3. ワークショップシート⑥質問4.

今後の新常滑市民病院の建設に向けて希望することを書いてください。

ご意見・ご提案

【交通アクセスについて】

▼交通アクセスの問題はできるだけ早急にお願いします。

→ 交通アクセスの問題については、メンバーの方々からもご意見の多かったバスの問題も含めて、別途協議の場を設けていきます。

【小児科外来について】

▼小児科は1階フロアになる予定で、子ども連れの保護者にとっては助かると思いますが、子どもが風邪を引くと、耳鼻科にもかかる人が多くいるのではないかと思います。耳鼻科は2階フロアになっていますが、それはこういった理由なのか教えてください。

→ 耳鼻科や眼科については、聴力検査のための防音室や吸入を行う処置室、視力検査室や暗室など、内科外来や外科外来とは異なる面積や仕様の部屋が必要であるため、外来を2階フロアに計画しています。

【外来レストラン・職員レストラン】

▼6階レストランは、職員用と外来用に場所が区切られていましたが、市長さんも職員の方も一緒に食事が出来る市役所のレストランの様にしたら、お互いを身近に感じられていいのではないかと思います。

→ ご指摘はごもっともですが、一方でお昼時間は職員の息抜きの時間という面もありますので、その点を考慮して現在の計画となっています。

▼職員の方は食事の時間も手短にするために、コンビニでパンを買ってすませていると聞きました。レストランは、食べ物の持ち込み可にするのか、また忙しい職員の方にも対応したメニューにするのか、計画が決まっていたら教えてください。

→ 現時点ではまだ計画しておりません。なお現在の市民病院では職員食堂へはお弁当やコンビニ弁当を食べる職員もいます。また営業時間外は休憩や打合せ場所として利用することを考えています。

【ボランティアについて】

▼病院におけるボランティアの役割を、車いすの介助や院内案内、花壇整備だけで良いとする矮小化や、逆に何でも協力してもらえるとという過大期待も危険である。病院側とボランティア側が十分論議の上、適正なボランティアの役割決定と、それを保障するための条件整備（ボランティア・ステーションの充実等）が必要である。

▼市民も協働の主体者としての力量を高めるため、絶えざる研修、自己研鑽が求められる。

▼病院関係者と市民の間のコミュニケーションの推進、病院と地域（コミュニティ）の関係で病院が市民や地域に開かれた施設（拠点）となるためには、ボランティアの存在が一番重要であり、協働の橋渡しの要になると考える。そういう意味で開設までの残された準備期間（2年半）は決して長いとは思えない。ボランティア側としては、先ず有志を募り、それらのメンバーが中心となって、ボランティア・グループの組織化、一般市

民対象の講演会や研修会の開催を始め、各種キャンペーンを企画する中でボランティアを徐々に集めて、病院経営、運営に貢献出来る組織作りを展開すべきであろう。もし、上記のような取り組みが始動する際には、病院側の積極的指導、協力を期待するものである。

- ▼新病院開院までに、市民が関わり、支える機能を確認するよう準備をして行かなければならないので、意識が高まっている今の時期を逃さず動き出していくと良いと思います。特にボランティアの組織の準備・募集など。
- ▼ボランティアの募集、コーディネートとまだまだすべきことがある。
- ▼新病院の建物ができる前からやることは山積みです。特にボランティア。
 - **ご指摘はごもっともです。新病院の開院を待つことなく、ボランティアの方々と連携しながら、新病院でボランティアの方が活躍できる体制と一緒に作っていきたい**と思います。なお、ボランティアステーションにつきましては、限られた面積の中で、グループワークでいただいたご意見等を出来る限り反映するよう努めます。

【広く意見を募集する】

- ▼今後は昨年の100人会議以外の方、例えば、保育園・小中学校・高校、老人会、民生委員、地元の企業からもアンケート等協力して頂き意見を取り入れたらどうでしょうか？
- ▼多くの市民から要望を集めるには、今の病院および公民館などに意見箱の設置をしたらよいと考える。「こんな病院にしてほしい。」「こんないやな思いをした」等、多くの意見を集めれば、進む道が示される。現意見箱にも苦情がたくさん寄せられているようだが、新病院に向け、随時決まったことを発表しつつ、苦情、意見・要望を集めてほしい。
 - **ご提案のご主旨はごもっともですが、100人会議などでメンバーの方から有意義なご意見をいただけたのは、見学や勉強会をとおして一緒になって勉強してきたからという面もあります。こういった形での意見の収集が良いのかを含め実施を検討していきます。また新病院について決定したことは適宜お知らせしていきます。**

【100人会議のサポーター企画の継続】

- ▼どこまで関わられるか疑問だが、100人会議のメンバーはずっと関わり続けられる新しい組織がいるかもしれない。(例えば新市民病院をよくする会のような。)
- ▼建物が準備できたらいいよ人の活躍ですね。運営面での問題は山積みですが、何かの形で市民も協力・参加できる場を作ってほしい。
- ▼建設までにまたこのような機会があると嬉しいです。
- ▼今後も「市民参加」の形態を続けられるよう希望します。
- ▼設計の段階の市民参加の意義成果をアピールし、病院ボランティアを含めた運用面での市民参加要請、運用に関する意見要望の集約反映の公表、改善に向けての議論の機会設定等市民が積極的に関わられる環境作りを今後も推進していかれることを望む。
- ▼〇〇会議をやる時には、また呼んでください！
 - **今後も何らかの形でこのような議論の場を企画していきますので、ぜひご参加ください。**

【医師会との交流会・研修会】

- ▼病院であり、安定運営には、市内に多くある診療所（医師会）との病診連携で、入院患

者の安定確保できるかが課題。院長・副院長は医師会員であり、医師会内で病診連携を話題にして、協力・連携関係を深める時に来ていると思う。

▼新病院には保健センターが合築され、医師会・歯科医師会・薬剤師会の事務所や会議室もこれまで通り確保することや休日診療を病院に定点化すること等で、病院と診療所の医師等の顔見知りの関係を築き、病診連携にも繋げたい。この際、事前に、病院と診療所との交流会・研修会等を立ち上げ、新病院の開院までに連携関係を組織化できないか。

▼市民の皆さんが、健康を維持し、元気な体で長生きするには、保健予防事業を実施している保健センターと地域医療を担っている市民病院や、かかりつけ医である市内医療機関が、連携を図らなければなりません。そのためには、今後、市民病院と市内医療機関（医師会）が役割や機能を分担する仕組みをつくるのが重要です。

→ **現在、医師会との連携の取組の一つとして拡大医局会議を行っており、その中で11月からFAXによる放射線撮影予約を開始しました（受付は地域連携室で行っております）。** 今後は放射線撮影のみならずその他の検査も含めて市民病院での診察を行わなくても検査ができるような検査予約の仕組みを整えていきたいと考えています。また不定期で「地域連携ひろば」という地域のクリニック向けの広報を発行し、クリニックの待合などに掲示していただき病院からの情報を発信しています。コミュニケーション日本一の連携としてはまだまだですが、今後も医師会との連携を強化していきたいと思えます。

【コミュニケーションについて】

▼新病院の建設がスタートすると同時に「コミュニケーション日本一の病院」のしくみ（システム）づくりの活動をぜひスタートしてほしい。例えば、まず、①導入準備段階（コミュニケーションの勉強会・研究会、キックオフ宣言、目標設定、モデル活動、マスタープラン・アクションプラン作成）、②導入段階（活動体制づくり、サークル横展開、活動板による活動経過・効果の見える化など）。活動の指標・目標は、行動系と結果系に明確に分ける。

→ **具体的にどのように計画していくべきかも含めご支援・ご協力をお願いします。**

▼行政サイド、病院スタッフサイドで行き詰りがみられる場合市民サイドに協力や援助を迅速かつ気軽に要請したり、市民サイドの問題を行政サイドに迅速かつ気軽に報告したりといった相互伝達のモデルを模索しながら、既存のツールの充実に加え新しいコミュニケーションツールの開拓（たとえばご意見専用フリーダイヤルとか街角掲示板とか）を検討してもらいたい。

→ **ご提案のご意見専用フリーダイヤルをはじめとする新しいコミュニケーションツールを検討していきたいと思えます。**

【現地の見学会】

▼現地が更地のうちにイベントか見学会をおこなってはどうか。（これから開けていく地域なので、現場に足を運ぶことによってぐっと期待感も高まると思えます。）南医療生協での、内覧ボランティア養成や班会のとりにくみなど参考になるかもしれません。

→ **とてもよいご提案ですので、南生協病院の取組も勉強しながら検討します。**

【今後の情報の提供】

- ▼予算のことを考えず様々な希望を出しましたが、予算内でどの程度実現したか知りたいのでその後の設計図を見たいと思います。
 - ▼コンビニ・レストランの決定状況も知りたいと思います。
 - ▼たくさんの意見を述べてきたが、どのように生かされたか気になる。今後引き続き情報を得たい。
 - ▼最終設計の公表や実際の建設において変更箇所が生じた場合、要望や意見が多い箇所に関しては、その理由と補完する運用面を示す迅速な情報公開を望む。
 - ▼今後、この熱気をどうやって出席していない方々にも伝えていったらいいかと悩むところですが、大切なことだと思いました。
- **設計をはじめ新病院に関して決まったことがあれば、適宜メンバーの皆さまにお知らせする機会を設けたいと思います。**

【障がい者の対応と理解について】

- ▼新・常滑市民病院オープンにむけ、整形外科医に頸椎症とは異なる脳性マヒの二次障害を研究して理解するグループは出来ないでしょうか
 - ▼また驚くほど一般的な医療関係者ですが、障がい者とみると幼児言葉や高齢者施設で耳にする言葉で話され不快に感じになるので、ほかの患者さんと平等な対応を願う。
 - ▼とくに脳性マヒの者は知的障がい者と見られ幼児言葉で対応され、その症状を本人に聞かず同席の家族とかヘルパーさんに様子を聞かれることが多く困った経験がある。そこで発達障がいや精神障がい者など、様々な障害がある人達の声に耳を傾けるグループをつくる事を希望する。そう言った事を“もしもしナース”などで話し合われるよう期待する。
- **病院を利用される障がい者の方についてのご意見をたくさんいただきありがとうございます。事務局では気づかない点も多く大変参考になります。いただいたご意見の全てにお答えすることはできないかもしれませんが、できる限り対応していきます。**

ご感想など

【メンバーの意見を基本設計に反映】

- ▼このワークショップでの意見を少しでも取り入れていただけたらうれしいです。
- ▼ワークショップを開催した意義があるような新常滑市民病院を期待します。

【今後もお手伝します】

- ▼またどこかでお役に立てればうれしいです。
- ▼私たちが病院に迷惑をかけない利用者となるため「雑誌・TVに氾濫している健康情報に惑わされて自己診断したり、病院のはしご、コンビニ受診したり、「患者様」と呼ばれて権利意識が高くなったりすることのないようお互いに戒め合ってまいります。そして私たちの病院のよりよい発展のためにお手伝いを惜しみません。

【今後に期待】

- ▼コミュニケーションについては現状況でも、できることを今以上に発展させていけば良

と思います。

- ▼開院に向けスタッフ・コミュニケーションの実践を期待しています
- ▼病院が核となって、常滑市が日本一住みやすいまちになることに期待します。そのためにも、地域のあらゆる人たちとコミュニケーションをとりながら、大きな力・小さな力、あらゆる力を借りてコミュニケーション日本一の病院づくりを成功させていきたいです。（まだまだ地域には眠っている力があるはず。）
- ▼出席者には病院の概要が分かり、期待もますます膨らんで大変よかったと思います。
- ▼建設後の運用です。一層の無駄の排除、改善活動の実践・充実をお願いします。今あるものは、もう、古い。「朝令暮改」は、あっても良いのです。この点、八千代病院の考え方は、ありがたい示唆と思います。
- ▼知多半島には「天使（看護師）のほほえむホスピタル」があり、そこには「おもてなしの心に溢れた天使と医師とスタッフとそして市民がいる」そういう活動にしようではありませんか。
- ▼私的意見としては、コンサート・絵画展示などは、あくまで「入院患者の癒し」の部分であって、市民が発表の場として、ホールを利用するのは、おかしいと思う。「レストラン」で名を売るのではなく、医療行為の質で名を売ってほしい。

【いい病院ができそう】

- ▼器は、日建設計さんで間違いなし。
- ▼現時点のチームなら、すばらしい新病院ができあがると思います。
- ▼去年の「100人会議」そして今回の「ワークショップ」に参加させていただき、病院・行政の関係者、設計業者を含めての事務局の方々と親しく意見交換をする中で新病院建設に携わる皆さまにお任せして大丈夫との確信を持ちました。よろしく願いいたします。時々進捗状況を教えて下さいね。
- ▼関係者全員の積極的な姿勢を強く感じています。よろしく願いします。

【事務局へのご意見等】

- ▼いつも私たち100人会議のメンバーを大切にしてくださりありがとうございます。
- ▼100人会議からワークショップまでありがとうございました。